

誰もが暮らしやすい地域を目指して



なはセン通信

Vol.97

2024年
9月号

目次

誰もが暮らしやすい地域を目指して
講座・イベント
なは市民活動支援事業・図書
相談・助成金

1
2
3
4

問い合わせ

なは市民活動支援センター
098-861-5024
C-KATU005@city.naha.lg.jp

松川小学校区拡大地域ワークショップ

7月27日に、「松川小学校区拡大地域ワークショップ」が松川小学校の学校地域連携室（愛称・ユイユイホール）で開催されました。

松川小学校区では、誰もが暮らしやすく、魅力あるまちづくりを地域の人々で実践したいという思いから「小学校区まちづくり協議会」設立に向けた準備を昨年度より地域主体で進めています。これまで複数回にわたり、小学校区まちづくり協議会について学び、どんな地域にしたいかの話し合いを重ねてきました。

当日は、地域の方々や地域内の各自治会長をはじめ地域住民や関連団体など総勢70名以上が集い、松川小学校区のまちづくりについて熱い話

合いが繰り広げられました。

お互いの意見を尊重しながら話し合うことで地域の課題や可能性について共有され、理解を深める機会となりました。さらに、参加者それぞれの視点から発せられる意見からは、新たな視点や発想が生まれる様子を垣間見ることもできました。

潜在的にその土地が持ついる要素とそこに住む人たちの想いが重なることで、松川小学校区のまちづくりに対する新たな可能性を見出す時間を過ごすことが出来たと思います。加えて、今回のワークショップを円滑に進めるために多くのファシリテーターボランティアの協力があり、那覇市の地域づくりに関わる人材の豊富さを改めて実感しました。

参加者からも、今回のワーク

ショップに参加して、これからも積極的に協議会の立上げや取り組みに関わっていききたいという意見がたくさん寄せられました。

多様な立場からの参画や連携による、松川小学校区が目指すコミュニティの実現に向け、新たな一歩を踏み出すことができ、大盛況のうちにワークショップを終えることが出来ました。

改めて、地域が一つになつてまちづくりに取り組む大切さを感じることができ、引き続き小学校区まちづくり協議会立上げに向けて、一人ひとりが自身の地域に誇りを持ち、まちづくりに参画できるよう取組んでいきます。



講座・イベント

◇第2回講座 在住外国人と地域の協働

7月25日(木)に、なは市民協働大学第2回講座「地域と在住外国人との協働」を実施しました。

第2回講座は2部構成で進められ、那覇市市民文化部市民生活安全課の武元清一課長から1部では、那覇市の在住外国人の現状と多文化共生施策について説明がありました。多文化共生施策の生い立ちから、市民生活安全課の事業の1つの「外国人相談窓口」に

来る外国人の方の相談事例を交えながら那覇市としてどのような取り組みをしているのか行政としての現状を知ることができました。



在住外国人の参加者

て説明をいただきました。その後、職員の佐藤純子さんを中心に若狭公民館での多文化共生の取り組みである「多文化カフェ」を協働大学バージョンにした「出張!多文化カフェ!!」が開かれ、参加いただいた外国人と共に「沖縄に来て嬉しかったこと」「大変だったこと」「明日からできる多文化共生」について考えました。



◇盛況! 市長とゆんたくタイム

7月26日(金)、那覇市文化芸術劇場なはーと大劇場にて、『学生向け市長とゆんたくタイム』を開催しました。例年は学校から依頼を受け、市長が学校等に直接足を運ぶ形で開催して



いた本イベントですが、今年は新しい試みとして、一般の学生を対象に広く募集し、県内全域から約240名の学生の参加がありました。

イベントは3部構成で進行し、第1部では、市長が自身の学生時代や新人時代のエピソードを語り、一日密着動画を通じて市長の日常生活を覗き見るなど、市長をより身近に感じる機会を提供しました。さらに、那覇市の未来像についても語られ、学生たちが那覇市での仕事を具体的にイメージできるようなプログラム構成で進められました。

第2部では、市長自身や那覇市の各部職員と学生とによるトークセッションが行われ、学生から気軽に質問が寄せられました。那覇市の仕事内容、やりがいや職場環境、研修体制など、職場のリアルな雰囲気や直接感じてもらい、学生の不安を軽減し、那覇市で働くことの魅力を伝

えました。

第3部では、事前に集めていた学生からの質問やリアルタイムで受け付けた質問にも市長が応えました。リアルタイムで書き込んでもらうツールを使ったことで、会場の大勢の中で発言をする学生でも気軽に参加できる形にすることが出来ました。

イベント終了後のアンケートでは、多くの学生が那覇市で働くことに「魅力を感じた」ことが分かりました。参加した職員も、こうした新たな形の交流の機会を有意義に感じ、「学生と直接話すことで、自身の仕事への意識が変わった」と職員の感想もありました。



那覇市民活動支援事業 採択団体の活動！！



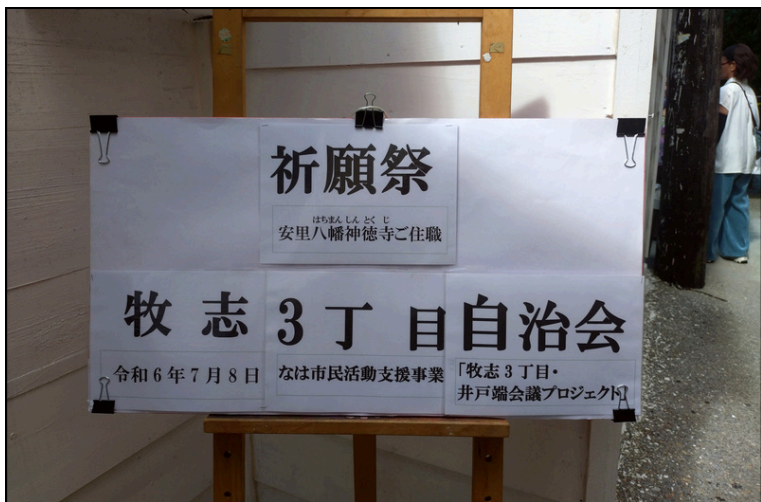
祈願祭の様子

牧志3丁目自治会において、令和6年度なは市民活動支援事業助成金を活用し、「牧志3丁目・井戸端会議プロジェクト」を実施しています。

地域に古くから「水神」として活用されていた井戸の整備などを行い、地域の安全祈願の場所として地域住民等の交流の場として復活させたいと計画しています。

7月8日(月)は、整備前の祈願祭が執り行われ、当自治会をはじめ多くの方が参加されていました。

牧志3丁目自治会の活動



今後、近隣の住民や店舗の方々と協力し、定期的に草刈りを行ったり、祭祀事を復活させたいそうです。地域の憩いの場(交流の場)として、井戸が生まれ変わるのを楽しみにしています。



これからのおすすめ 講座・イベント

ボランティア基礎講座 2024年10月8日(火)

【場所】なは市民活動支援センター 会議室1

申込
フォーム



ボランティアを始めてみたい人にぜひ受けていただきたい講座です。



毎月第2土曜日

11:00~15:00

【場所】

なは市民活動支援センター ピロティ1階ピロティー

毎月魅力的な出店者が集い開催されていつながるマーケット！ぜひ、ご家族・ご友人と一緒に遊びに来てください！

貸し出し中！

なはセンお薦め図書

連鎖する
もうひとつの
貧困

体験格差

日本初の全国調査が明かす「体験ゼロ」の衝撃！！

〈著者〉今井 悠介

日本財団によると、現在日本では7人に1人の子どもが貧困状態とされています。つまり、40人クラスに約6人が相対的貧困に悩まされている状況であることから、「子どもの貧困」はとても身近にある社会課題の1つです。

本書では、全国2000人以上の小学生の子どもを持つ保護者を対象に実施した「体験」に関する調査結果と様々な家庭環境にある子どもたちのケースも交えながら、子どもの「体験格差」をもう1つの貧困とし



て触れています。

また、体験の有無でうまれる格差の現実に触れつつも、自分の力ではどうすることもできない事情によつて社会との繋がりを断たれてしまった子どもたちがその「体験」を通じて、再び社会と繋がる【体験の可能性】にも着目していることから、「体験」の重要性を新たな視点から発見できる一冊です。

なは市民活動支援センターについて



◆駐車場について・・・

なは市民協働プラザ地下駐車場（駐車台数：39台）
メカルパーキング（駐車台数：70台）
※なは市民活動支援センターをご利用の場合、駐車料金は減免の対象となります（例：2時間100円）

◆開館時間、休館日

月・火・木・金	9：00-21：00
水・土・日	9：00-17：00
休館日	年末年始・慰霊の日

◆施設利用料金 ※1時間当たりの料金 ※オンライン機材貸出可

	収容人数	料金	冷房
会議室①	84人	1,300円	400円
会議室②	30人	650円	200円
会議室③	30人	650円	200円
会議室④	8人	200円	100円
会議室⑤	12人	200円	100円
会議室⑥	12人	200円	100円
会議室⑦	5人	200円	100円
会議室⑧	20人	250円	100円
研修室①	16人	200円	100円
研修室②	16人	200円	100円

◆めかる学習ステーション

開館時間中、なは市民活動支援センター 2 階を学生・社会人向けの学習スペースとして開放しています！
それぞれの学習ペースに合わせてご活用ください。

なはセン相談室

◆市民活動よろず相談

那覇市の市民活動に関する相談サービスです。なお、相談希望の場合は原則予約制となっておりますので、詳しくはこちらのQRコードから！

～相談日時～

月・火・土 10：00～17：00
金 14：00～20：00

予約はコチラ



◆那覇市人材データバンク (ボランティアマッチング)

那覇市でボランティアをしたい人と受け入れたい団体のマッチングを行い、地域社会の課題解決につなげます！

詳細はコチラ



助成金情報

◆がん患者団体助成事業申請書

【締め切り】10月17日
【問合せ】公益財団法人正力厚生会
【TEL】03-3216-7122

詳細はコチラ



編集後記

はいたい！夏休みにはなはセンを通じて多くの方が市民活動の輪の中にボランティアとして参加していただきました！今月はボランティア講座もあります。秋からボランティアを始めたいという方は、ぜひなはセンにお問い合わせください！